

海外留学

・ 海外留学者 13名

留学者	留学期間	留 学 先	テ ー マ
林 達哉	1994-1996	リトルロック アーカンソー医科大学 (Prof. Edgar Garcia-Rill)	歩行関連運動ニューロンの胎生期発達に関する電気生理学的検討
安部 裕介	1999-2001	バッファロー ローズウェルパーク癌研究所 (Prof. Yasmin M. Thanavala)	インフルエンザ菌ワクチン療法開発へ向けた基礎的研究
本間 裕	1999-2001	リトルロック アーカンソー医科大学 (Prof. Edgar Garcia-Rill)	睡眠および姿勢制御に関する脳幹神経機構
荻野 武	2000-2002	バッファロー ローズウェルパーク癌研究所 (Prof. Soldano Ferrone)	癌細胞におけるHLA class I 抗原の発現制御機構
坂東 伸幸	2001-2003	バッファロー ローズウェルパーク癌研究所 (Prof. Soldano Ferrone)	頭頸部扁平上皮癌におけるHLA class I 認識抗体Q1/28の解析
片田 彰博	2003-2005	ナッシュビル ヴァンダービルト大学 メディカルセンター (Prof. David L. Zelear)	喉頭ペーシングによる電気刺激による喉頭機能の回復
高原 幹	2003-2005	スウェーデン スtockホルム カロリンスカ研究所 (Prof. Eva Klein)	鼻性NK/T細胞リンパ腫細胞株におけるLMP1の発現調節と機能
石井 秀幸	2003	スイス チューリッヒ大学小児病院 (Prof. David Nadal)	鼻性NK/T細胞リンパ腫における血清EBV-DNA値の臨床的有用性
石井 秀幸	2005-2007	スウェーデン スtockホルム カロリンスカ研究所 (Prof. Eva Klein)	鼻性NK/T細胞リンパ腫細胞株と炎症細胞の相互作用
片山 昭公	2004-2007	バッファロー ローズウェルパーク癌研究所 (Prof. Soldano Ferrone)	HLA-A2 癌ペプチド特異的Single chain variable fragment-based probeの開発
國部 勇	2005-2007	ナッシュビル ヴァンダービルト大学 メディカルセンター (Prof. David L. Zelear)	反回神経麻痺に対する喉頭ペーシング
野村研一郎	2008-2010	ナッシュビル ヴァンダービルト大学 メディカルセンター (Prof. David L. Zelear)	喉頭ペーシングによる両側声帯麻痺の運動機能回復
上田 征吾	2010-2013	スイス チューリッヒ大学小児病院 (Prof. David Nadal)	鼻性NK/T細胞リンパ腫マウスモデルの作成
長門 利純	2012-	南フロリダ大学 モーフィット癌センター (Prof. Esteban Celis)	頭頸部癌への免疫療法へ向けた基礎的研究